

e-ビーフNEWS 北の牧場から

September 2019

十勝は晩夏

盆が来るとストーブを焚く…そんな北海道です。例年通りの秋への変換、雨が続き晴れたら夏になったら交互にやってきます。ダウン着たりTシャツになったり忙しいけれど、さぼると鼻水が出てきます。そうこうしているうちに、お日様の出てくるのが遅く帰るのが早くなってきました。

周りも騒がしくなってきました。鳥たちはたわわになったブドウをついばみ、鹿の子たちは道路に出没、熊は札幌住宅街を徘徊しています。秋のサンマは今年も不漁気味で残念ですがシャケが戻ってきました。定置網の漁果はまずまず。昨年の不漁はさすがに農家の不作と伴って十勝経済にダメージがありました。今年は少し胸をなでおろしています

農作業は真っ盛り。ジャガイモ収穫から始まりました。去年以上の収量の気配です。牧草も2番草の収穫が順調です。ここ2か月は畑と戦争です。



活動のお知らせ

8/2(金)～3(土) 新宿NSビル オーガニックライフスタイルEXPO

HOBA北海道オーガニックビーフ振興協議会で出展しました 大勢の来客がありオーガニックビーフの広報を行いました

9/17(火) 岩手大学農学部(日本畜産学会大会会場)日本産肉研究会第24回学術集会 シンポジウム「乳用および肉用牛の放牧飼養を再考する」

基調講演:「大地に根差した創造生産の喜び」吉塚公雄様(田野畑山地酪農牛乳 代表)

講演: 1)小岩 幸一様 2)柴 伸弥様 3)畔柳 正様 4)荻澤 紀子様、田村 樹起様

総合討論:「赤身牛肉の生産と新しい評価基準の模索」

研究会ホームページ ▶▶▶ <http://www.agri.tohoku.ac.jp/keitai/jsmp/index.html>

10/23(水)～24日(木) 北海道アニュアルフェアスタディーツアー 函館/大沼流山牧場、山田農場～北里大学八雲牧場

NEWSばかり読み

- チーズ消費が加工最高 輸入シェア拡大し国産減少 7/27:TPP/EPAのおかげ
- 宮城市場 和牛精液不一致発生 繁殖台帳の再検査開始 7/27:人間系
- フードテック企業に注目 生マグロ、肉熟成にシート販売
7/28:技術開発が進むね
- エアシェア(帯広)ネットでビジネス航空機の使用サービス開始
7/28:老体は有効
- 中国 3年ぶりに原発認可 独自開発で海外輸出視野 8/2:拡散どうかな
- 脱脂粉乳 在庫ダブつき 酪農家増産に黄色信号
8/2:製造や輸入バランス舵取り
- 帯広畜産大学 上川大雪酒造と大学構内に酒蔵 共同研究 8/3:飲むのに参画
- 政府統計 インバウンド客数東西拮抗、消費は東京ひとり勝ち 8/4:地方分散は
- 植物工場にJAS規格 衛生管理に評価付け 8/5:その前にHACCPかな
- 北海道、JA釧路太田が災害時に牛飲用に川から給水検討
8/5:多様性は身近から
- 自然災害で18年度食料自給率37%と最低に 8/7:天任せ
- 家畜改良事業団 和牛第7育種種に脂判断でおいしさ改良 8/8:一歩前進
- IPCC報告2050年に穀物価格23%アップ 水・食糧不足に
8/9:温暖化解消必須
- 若手就農者2万人割れ 他産業との競合 8/10:魅力ある農業を
- 北大 牛白血病を免疫製剤で抑制 8/12:可能性に期待
- 米国農家 米中貿易摩擦で苦境に 負債増加 8/14:トランプ自国に足場失う
- 広島大学、大分県 雌雄産み分け方法の安価簡易方法を開発 8/14:技術は進む

- 米国内 植物由来の卵や肉ブーム 大手外食導入で拡大
8/14:食感のみ、栄養課題か
- 広島県ほか企業G LEDで血液中のVA簡易判定 8/15:LED力膨大
- 北海道 ドローン使い牧草地の雑草把握 8/16:ドローン用途増える
- フードバンク活用が急増 コンビニ、スーパーにESG投資反映 8/17:社会性
- 関西電力 野菜工場を仮想発電所として調整施設利用
8/17:農業施設の可能性大
- ウオマート店舗利用のネット販売で増益 8/17:複合合体で新たな流通形態模索
- 19年上期度冷凍輸入野菜が過去最高の53万t 業務用野菜で定着
8/17:国内野菜とのすみわけ
- 7月生乳量 11か月ぶりに前年上回る 8/19:底を打ったか
- 標茶町放牧地 7月から乳牛がヒグマ被害相次ぎ退牧 8/19:熊害ここまでとは
- 豚コレラ感染イノシシ 6県53市町村で1000頭超え 8/20:感染蔓延の様相
- 19年上期 鶏卵輸出が拡大 温泉卵がブーム 8/20:何が輸出を引っ張るか
- 19年原発再稼働ゼロ 電力大手経営影響 8/23:ゼロ前提で経営戦略を
- 農林水産省 20年度予算 キーワードに輸出・スマート
8/24:もう一つあるでしょう
- 日米首脳合意 米産飼料用トウモロコシ275万t追加輸入
8/27:うんこは処理は
- 追加輸入理由に国内産トウモロコシが害虫被害拡大
8/27:あべちゃん流こじつけ
- 豚PED(流行性下痢)が7道県に拡大 8/28:定着性が危惧
- メキシコTPP以降に畜産物・果実輸出拡大 8/30:確実に定着
- 乳牛検定組合 18年産子数雌55.2%雄44.8% 判別精液定着
8/30:雄減少明白

東京直近NEWS (8/30 Shi-REPORT)

ホルス

相場変動少なくほぼ横ばいからやや下げ基調。

頭数の出回り減少は続いており、産地では取り扱い頭数減少。販売状況は低調続いており在庫も重い状況。盆前後も販売状況変わらず苦戦状態、切り落しが低迷しており単品部位も鈍い。しかしながら、枝相場は堅調維持していることから相場は大きく下がらないだろう。9月以降の販売回復に期待したい。

経産牛

経産牛相場は高値を維持。出荷頭数はやや回復傾向も、依然絶対数は少ない。枝相場高値に張り付いており、上口からガリ物まで値差が少なく産地工場はコスト上昇。販売は頭数が少ないために引き合い強く、パーツより挽き材原料が不足している。コスト上昇に伴い、産地から仕入れ値上げ交渉されており、売価転嫁せざるを得ない状況。学校の夏季休暇明けから牛乳消費伸び予測され、経産牛の集荷頭数がまた縮小可能性あり、頭数不足は継続課題の可能性。

米中貿易摩擦は世界経済に影響するほどに拡大し、日米の貿易交渉にも影を落としました。G7の際の日米貿易協定の首脳会談では日本の農畜産物関税のTPP水準で合意し、自動車関税の撤廃は先送りとなりました。日米安全保障条約という日本の急所を突かれたのでしょうか、再会談では米中貿易摩擦で余剰のトウモロコシを購入させられ、なぜ日本の農業が犠牲になるのか、支援策まで講じてする政府の農業の未来像や国のビジョンが読めません。

e-ビーふNews68号の学術情報は以下の通りです。

1. 畜産技術#770,2019.7

特集1. BSE対策を振り返って(川島俊郎: 食品安全委)

わが国のBSE対策を時系列にすれば以下の通りです。2001年10月から肉骨粉の輸入と肉骨粉からの飼料製造は停止となり今に至っています。農場のリスク牛サーベイランスでは死亡牛の検査対象が24か月齢に引き下げられ、本年になって96か月齢以上の死亡牛となりました。感染牛の異常プリオン蛋白質が99%蓄積する特定危険部位SRMの除去だけでは日本社会の食品安全性への危惧が消えず、厚労省の政治決断で全頭検査へ、そしてリスク評価・管理、リスクコミュニケーションの在り方が議論となり、食品安全委員会が設立されました。今後は中立公正なリスク評価に即した適切なリスク管理が大切です。

2. 畜産技術#771, 2019.8

研究レポート2: 黒毛和種の枝肉形質に関する遺伝様式の再検討—脂肪交雑に対する母方発現インプリンティング遺伝子の関与の可能性—(広岡博之:京大農)

黒毛和種の種牛選抜はアニマルモデルBLUP法の枝肉形質の育種価に依るのが理論的に最適ですが、生産現場では交配種雄牛の選定は父と母方の祖父の系統の組み合わせにより行われています。

父-母方祖父モデルからの分散から非メンデル遺伝様式の一つであるゲノムインプリンティングの分散を求めることができます。

黒毛和種の脂肪交雑形質は他の脂肪関連形質とは遺伝相関から観ても別の遺伝的発現様式でメンデル遺伝様式と完全には従っていないようです。黒毛和種の脂肪交雑は他の品種の脂肪交雑とは別のもののようにゲノムインプリンティング遺伝子の関与が統計的に示され、さらにゲノムレベルでの解析が必要と思われる。

3.北畜草会報Vol.7(2)2019

II-8 木質バイオマスの飼料化に関する研究(VI)—黒毛和種肥育牛に対するシラカンバ蒸煮物の給与実証試験—(阿佐玲奈,他、帯畜大)

黒毛和種肥育牛に道産広葉樹のシラカンバ蒸煮物を12.5-14.5か月齢から2kgまで給与し、28-30か月齢で屠畜し、枝肉格付形質の検討・12名の官能評価を行いました。その結果どの項目にも有意差は見られず、安価で安定供給できるシラカンバは肉用牛粗飼料として利用可能性があるとされました。

国産牛 NEWS

話題提供3.「有機畜産の理想と現実」 全4回シリーズ④
北里大学獣医学部附属 FSC八雲牧場 小野 泰 係長

枝肉検品時に
日本食肉格付協会の格付員より
コメントあり

- ◆草だけで育っているとは思えない
- ◆脂肪質が非常に良い
融点・しまり・脂り
- ◆肉が赤身なのにドリップ少ない

※格付員は全国転勤族なので2~3年で異動。こんな牛見たことないと皆さん驚かれます。



まとめ

国内における牛肉は屠殺処理による雑種肉の生産は一つの文化である。

○国内における牛肉は屠殺処理であったが健康志向などから現在では赤身牛肉も流通してきている。

○さらには食肉に対しオーガニック、動物福祉も考えられるようになってきた。

○「オーガニックビーフ」の検索ワードで八雲牧場にたどり着き、問い合わせしてくる流通業者及び消費者が増えている。(生産者が追いついていない)

まとめ

牛肉に対しての「安心・安全」から生産過程を意味した「安心・安全」へ。

↓

有機JAS認証などの第三者による認証

○有機畜産を実践するから環境負荷や動物福祉を考慮するのではなく、有機畜産を実践するということは自然の方(土・草・家畜)を最大限に利用しなくては不可能であり、それは環境負荷の低減であり、家畜福祉そのものであると考える。

